

Japan Pride

校長 清水 哲也

サマータイムが終了し時刻がもとに戻りました。4月からヨーロッパの地で生活してきた中でたくさんの驚きや戸惑いがありましたが、最も大きかったのはサマータイムによって夜遅くまで明るいことでした。壊れていない時計の針を1時間もずらすという初めての経験はとても新鮮な感覚でした。東欧の長い夜の有意義な過ごし方をこれから見つけていかなければと考えています。

前期の終業式で児童生徒に次のような内容の話をしました。

・・・サッカーについて話をします。数か月前のワールドカップロシア大会では、ランキング上位のチームを破った日本の活躍が話題になりました。同時に、会場で選手を応援している日本のサポーターが話題になったのを知っていますか。

日本のサポーターが世界で話題になり、その行動が称賛されたのは、実は4年前のブラジル大会からです。2014年6月15日、日本対コートジボワール戦で日本は1-2で試合に敗れてしまいました。サッカーの試合で負けた後、サポーターが怒りをあらわにしてイスを蹴ったり、何かを投げつけたりする場面を海外でよく見ることがあります。しかし、そのコートジボワール戦では日本は負けにもかかわらず、日本人サポーターは決して怒ったり取り乱したりすることなく、大きな青い袋をもって会場内を回ったのです。みなさん、日本人サポーターが何をしたかわかりますか。何十人もサポーターが協力して会場内のゴミを拾ったのです。その様子が多くの海外メディアによって紹介されました。

そして今回のロシアワールドカップでも日本のサポーターはこの青い袋によるゴミ拾いを行い、その様子が世界のメディアで取り上げられていました。日本人は上品でマナーが良く、礼儀正しい。日本人を尊敬するなど多くの驚きや素晴らしいという称賛が寄せられました。

4年前のブラジルのワールドカップが終わった後、地元のサッカーの試合のときに、地元ブラジルのサポーターが日本を見習ってスタジアムの清掃活動を行ったことが現地でも話題になったそうです。日本代表サポーターたちの行動が見本となり、ブラジルの地で確実に根付いているようです。同じ日本人として、とても誇らしく思える出来事です。

ただ、ゴミ拾いという行動について、まったく逆の見方や意見もあります。それは「会場には清掃を仕事にしている人たちがいる」「日本人サポーターはそれらの人の仕事を奪ってしまう」「その人たちの仕事がなくなると困る」というものでした。すべての物事はいろいろな側面をもっているのです。人によって見方は異なること、立場によって様々な見方があることも覚えておく必要があります。・・・



在籍している児童生徒の国籍にかかわらず日本人学校で学ぶ過程において、日本の伝統や文化を理解するとともに、日本が誇るマナーや規範意識を身に付け、日本人としてのプライドを共有してほしいと考えています。さらに物事を多面的にとらえることができ、日本との違い認識した上で諸外国の歴史や文化を尊重し、国際化社会を生き抜く真のグローバルな人材に育ててほしいと願っています。